

地域支え合いセンター

丸森町社会福祉協議会
マスコットキャラクター
うぐたん

神明住宅

木造平屋長屋住宅 54戸

3工区に分けて工事を行っています。12月から、完成した工区ごとに順次入居を開始していく予定です。

入居の早い工区では、現在内装工事、外構工事を実施しています。

鉄筋コンクリート造5階建て集合住宅 36戸

令和5年4月の入居開始に向け、現在は躯体工事を実施しています。



竹谷住宅

7月24日に入居式が開催されてから約2か月が過ぎ、8月にピークを迎えた引越しも落ち着きました。

「ここは、とても静かだよ。」

「カーテン仕切りの仮設から、間仕切りのある住宅に引越して気持ちがいい。」

「近所は知り合いだから安心。隣同士でおしゃべりしています。」

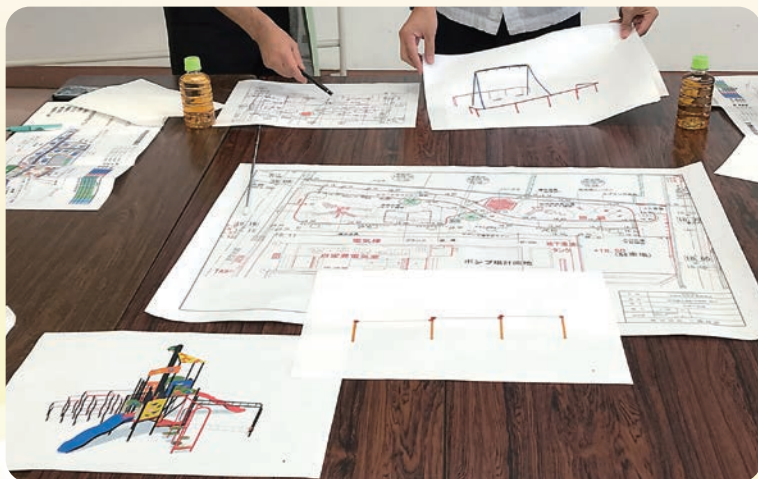
それぞれのペースで、新しい生活が始まっています。



第1回 神明住宅世話役会

75世帯およそ140人が入居予定のこの地区では、7月の移転者意見交換会で選出された5世帯の世話役を中心に、今後の地域活動について検討することになりました。

8月28日(日)に第1回世話役会が開催され、丸森町職員から住宅整備の進捗等についての情報提供を



受けたあと、意見交換が行われました。世話役世帯の参加者は男女比ほぼ半々、小学生から70代までとバランスも良く、多様な視点からの意見や質問が出ました。

また、コミュニティ支援を担当する(一社)東北まちラボからは、今後の地域活動や入居前の話し合いの大切さについての説明がありました。

地域の課題を、自分たちの取り組みで解決できるような新しいコミュニティの姿が、少しずつ見えてきています。

まなびの森 移動教室通信

今号と次号では、移動教室サポーターをご紹介します。

金山地区移動教室内で月1回開催している「やまちゃん食堂」サポーターの“金山更生保護女性会”と“金山仮設ばあばの会”の皆さんです。食堂を通してこどもたちとつながり、困った時にはこどもが自然に相談できるような信頼関係を築くことで、地域というとても身近な場所から成長を支えることを目的に協力してくださっています。



8月

献立の目玉は
人参ジャム
ヨーグルト!!



「ヤングケアラー支援を考える」勉強会



被災の影響をはじめ困難を抱える世帯を支えるためには、色々な機関が協力していく必要があります。地域支え合いセンターでは、8月に「ヤングケアラー」に焦点をあてて勉強会を開催しました。地域・学校・児童福祉・高齢者福祉分野などから、およそ50名の方が参加し、ヤングケアラー経験者の話をお聞きするなどして、改めて支援について考えました。



今、仮設でボッチャが熱い!!

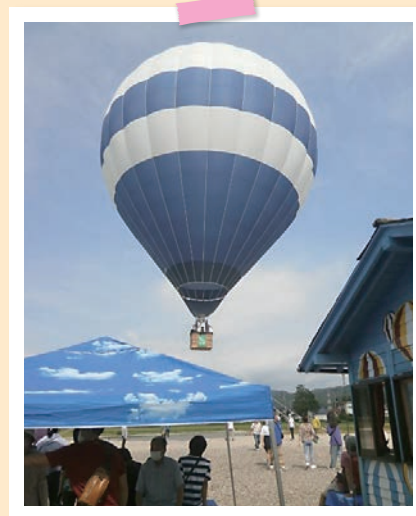
1年前の東京パラリンピックで手に汗握る熱戦を繰り広げた「ボッチャ」を覚えているでしょうか。丸森町社会福祉協議会では道具を貸し出しており、各仮設サロンで道具を借りて実施したところ大変好評だったため、なんと、11月にボッチャ大会を開催する運びとなりました。9月10月は各サロンの時間を使って特訓が繰り広げられるようです。



熱気球搭乗体験『復興フライト』計画中

地域支え合いセンターでは、令和元年東日本台風から3年を迎えるにあたり、大崎市のNPO団体の協力を得て、復興に向けて変わりゆく丸森町中心部を空から眺める気球係留を計画しています。初めての試みなので、どのような景色が見られるのかは未知数ですが、新川や五福谷川の様子、整備が進められている神明住宅まで見渡すことができるかもしれません。搭乗しなくても、下から見上げるだけでもとても迫力があります。

ただし、気球は風や雨にとっても弱いので、飛べるかどうかは運次第です。



第15号 2022年9月15日(奇数月15日)発行

丸森町社会福祉協議会

宮城県伊具郡丸森町字鳥屋55番地1

丸森町社協地域支え合いセンター

電話 (0224)72-2241

FAX (0224)87-8990

